

## 日本芸術の研究手法及び情報探索法

1. 東京文化財研究所 近・現代視覚芸術研究室長 山梨 絵美子 Emiko YAMANASHI
2. 東京文化財研究所 文化財アーカイブズ研究室司書 中村 節子 Setsuko NAKAMURA

### 1. 「日本近代美術史」の研究動向と研究手法

#### ① 「日本近代美術史」における「日本」「近代」「美術」の分類について

日本美術についてウェブ検索する際の便宜を考え、キーワードとなる言葉が一般的に意味するものを説明しておく。

#### 【「日本」とはどの範囲か】

現在の日本美術史は現在の国境、すなわち太平洋戦争以後の国境内の地理的範囲を「日本」としている。

一般にどの時代を語るについても、その時代の文化の中心となっていた場所、地域のことを「日本」全体に敷衍して語る、ないしは、そのように受け取る傾向がある。たとえば、平安時代の美術については、都（現在の京都の中でも平安京の範囲内）や南都（現在の奈良の一部）での事象を語って「日本」のことだとしたり、江戸時代の美術については江戸（現在の東京の一部）の事象を語って江戸時代の「日本美術」のことだとしたりする。

近代においては国境が一時拡大し、1945年に現在の範囲に近くなった。過去に、韓国、台湾、中国の一部が一時「日本」の範囲内になったことがあるが、現在の日本美術史は現在の国境をもとに「日本」の範囲を扱っている。

#### 【「近代」とはいつからいつまでか】

西洋においても「近代」の要件を何にするかという視点によって「近代」の始まりの設定が異なるであろう。日本においては、国民国家として制度が整ったという政治的意味で明治時代（1868－1912）を近代の始まりとするのが慣例となっている。

周知のように、日本では従来、年を表すのに元号を用い、明治以降は為政者となった天皇の一世一元制となったため、時代の括りが天皇の就任と逝去による、という特殊な事情がある。実際に日本で国民国家制度が整ったのは大日本帝国憲法が公布された1889年（明治22）だが、徳川幕府が倒れ、明治天皇親政となってから、国民国家への道を歩み始めたという意味で、近代化が始まったといえよう。

美術の分野においては、自立した自己の内面を自由に表現することが近代性の重要な要件となった。そうした表現の萌芽は江戸時代、18世紀にすでに認めることができるため、日本美術の近代化は18世紀に始まったとする見方も一部にはある。

日本が国民国家へと歩み始めるきっかけは鎖国を解き、国際化へと門戸を開いたことにある。そのため、日本の近代化と西洋化は並行して行われ、両者は切り離しがたい。西洋化イコール近代化という観点から日本美術を振り返ると、18世紀半ばから長崎を窓口としてもたらされる西洋の文物や西洋に学んだ中国の文物を眼にし、それらから線遠近法や陰影法などを受容した作品が登場している。

近代の要件を自己の内面の自由な表出に求めるにしろ、西洋化に求めるにしろ、それらを求める人々の広まりと求める深みは明治以降に一層拍車がかかっており、一般には明治以降が近代と考えられている。

近代と現代の境界をどこに設定するかについても諸説ある。欧米の思想界においてポストモダンということばが出始めるのは1980年代以降であるが、ポストモダンをよしとする思考の枠組み自体が近代主義を踏まえているため、欧米においてもモダニズムが終焉を迎えたとは考えがたい。日本においては、明治時代が近代の始まりと一般に考えられ、その政治社会制度が太平洋戦争で大きな変化を遂げたため、民主主義国家成立以後が現代とされた時期が長かった。

しかし、戦後も50年となる時期、特に日本の経済においていわゆるバブル経済が破綻して以降(1990年代後半)、1950年代、60年代を歴史としてみる傾向が強まり、近代と現代の境界が現在に近くなる動きが見られる。

#### 【「美術」概念の成立、「アート」との関係】

『眼の神殿』(北沢憲昭 1989年)を踏まえ、「美術」概念の成立過程を説明。「美術」は西洋の近代主義を前提としたもの(永遠普遍の美があるという前提)。  
アートは美術の中心がフランスへ移行して以降、19世紀的アカデミズムを破壊する造形として登場したものを指し示す。

#### ② 日本近代美術史の研究の歴史と近年の動向

日本近代美術史の研究史と近年の動向は『日本美術年鑑』や『史学雑誌』の「回顧と展望」などを概観することで把握できる。日本近代美術史については、制作者と同時代人々による評論、回想に始まり、大正末期に歴史的視点からの考察へと移行した。

日本の美術史学が様式論を主に受容したことにより、1970年代までは西洋美術の受容を様式比較によって明らかにするのが主流。ハインリッヒ・ヴェルフリン(Wölfflin, Heinrich, 1864-1945)が古典とされ、アーウィン・パノフスキー(Panofsky, Erwin, 1892-1968)による図像学、アンリ・フォションによる形の生命などが70年代に後半から受容された。

1990年以降、制度史、ニューアートヒストリー、および戦争美術の研究が盛んになる。  
上記の動きを黒田清輝の文献目録を追いながら振り返る。

(東京文化財研究所 黒田記念館 HP 日本語/English/Français/中文/韓文  
<http://www.tobunken.go.jp/kuroda/index.html> 参照)

#### ③ 研究手法

##### 【美術史の主要な方法論】

作家論=ひとりの作家の生涯とその作品、画風の変遷などを跡づける

作品論=一点の作品について制作の背景、関連作品との関係などを明らかにする

様式論=作品の造形要素となる線や形、色などの表現の特色に注目し、特定の作家、作品、時代を超えて認められる造形形式について論ずる

図像論=特定のモチーフが持つ象徴的意味を解き明かし、作品の意味するものを明らかにする

受容史=作品を通して発信されるものを受容する側に視点を置き、ある造形要素が他の作品に受容されていること、あるいはある作品が鑑賞者にどのように受けとめられてきたか、といった受容などのあり方を跡づける

制度論=美術を巡る制度を明らかにする

ニュー・アートヒストリー=オリエンタリズム、ジェンダーなど社会学的視点から美術作品を論ずる

学際的研究=文学、政治社会史、思想史、民俗学など他の学問領域を取り入れて美術を論ずる

##### 【作品調査の方法】

特定の作家に注目して調査する→その作家の過去の展覧会目録を参照。作品の所蔵先を調べて実見する、ないし特別な調査が必要であれば依頼して調査。

特定の主題に注目して調査する→その主題をキーワードに書籍や雑誌文献を検索して文献リストを作成し、それらの文献を収集、閲覧する。

## 2. 日本芸術の主要な情報探索ツールの紹介

- 代表的なレファレンスブック
- ◎→オンライン情報資源

最初に

1. 芸術には美術、音楽、映画、演劇と複数のジャンルがあるが、この講義では、講師の所属する組織が得意とする「美術」をメインとし、伝統芸能に関する情報を若干加える。
2. 講義では、オンラインの情報資源を紹介し、レファレンスブックについてはリストを配布する。

### ① 情報(モノ)のある場所を探索する

#### ■モノ(作品)のある場所

##### 美術館・博物館

問題点>現在、オンラインの美術館・博物館総覧はないため、各美術館・博物館HPを見る

○全国博物館総覧 日本博物館協会 ぎょうせい 1986.3

◎独立行政法人国立文化財機構 日本語/English <http://www.nich.go.jp/>

東京国立博物館、京都国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館、東京文化財研究所、奈良文化財研究所、アジア太平洋無形文化遺産研究センター(英文のみ)

e 国宝(国立博物館所蔵指定文化財の高精細画像公開)へのリンク有り

◎独立行政法人国立美術館 所蔵作品総合目録検索システム 日本語/English <http://search.artmuseums.go.jp/>

東京国立近代美術館、京都国立近代美術館、国立西洋美術館、国立国際美術館

##### 社寺

問題点>個々の社寺HPをチェック。しかし名品のみの紹介がほとんど

◎宗派別全国寺院リンク

[http://www003.upp.so-net.ne.jp/s-wada/link/temple/temple\\_b.html](http://www003.upp.so-net.ne.jp/s-wada/link/temple/temple_b.html)

個人サイト。有名寺院公式サイトへのリンクが充実

◎東大寺 <http://www.todaiji.or.jp/>

◎薬師寺 <http://www.nara-yakushiji.com/>

##### 個人

問題点>家名が伏せられていることが多く困難

#### ■情報のある場所(主な場所の紹介)

##### 図書館・文書館・史料館

◎国立国会図書館 <http://iss.ndl.go.jp/>

◎国文学研究資料館 <http://www.nijl.ac.jp/>

◎国立公文書館(内閣文庫) <http://www.archives.go.jp/>

※都道府県の公共図書館には文書館も付設されていることも多く、ある特定の地域の美術に関する情報の探索には必須。

◎東京都立図書館 <http://www.library.metro.tokyo.jp/>

◎大阪府立中之島図書館 <http://www.library.pref.osaka.jp/nakato/>

◎京都府立総合資料館 <http://www.pref.kyoto.jp/shiryokan/index.html>

##### 史料館・資料館・博物館・美術館にある図書館

※美術図書館横断検索(後述)に含まれる機関のほかにも

◎奈良国立博物館仏教美術資料研究センター <http://www.narahaku.go.jp/guide/05.html>

◎愛知芸術文化センターアトライブラリー

<http://www.aac.pref.aichi.jp/frame.html?bunjyo/a-lib/main.html>

美術史研究の歴史が長い大学(原則、CiNii Booksで各大学図書館の蔵書検索が可能)

- ◎東京芸術大学 <http://www.geidai.ac.jp/>
- ◎東京大学総合研究博物館 <http://umdb.um.u-tokyo.ac.jp/DBijutus/TBijutus.htm>
- ◎東京大学史料編纂所 <http://www.hi.u-tokyo.ac.jp/index-j.html>
- ◎東京大学附属図書館 <http://www.lib.u-tokyo.ac.jp/>
- ◎東北大学附属図書館 <http://tul.library.tohoku.ac.jp/>
- ◎名古屋大学附属図書館 <http://www.nul.nagoya-u.ac.jp/>
- ◎大阪大学附属図書館 <http://www.library.osaka-u.ac.jp/>
- ◎京都大学図書館機構 <http://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/>
- ◎九州大学附属図書館 <http://www.lib.kyushu-u.ac.jp/>
- ◎慶應義塾図書館 <http://www.mita.lib.keio.ac.jp/>
- ◎実践女子大学図書館 <http://www.jissen.ac.jp/library/frame/artbook.htm>
- ◎早稲田大学図書館・博物館 <http://www.waseda.jp/jp/global/library/>
- ※現代美術にも強い大学の図書館
- ◎武蔵野美術大学美術館・図書館 <http://mauml.musabi.ac.jp/>
- ◎女子美術大学・女子美術大学短期大学部図書館 <http://www1.joshi.ac.jp/library/>

研究所附属図書館

- ◎東京文化財研究所 [http://www.tobunken.go.jp/index\\_j.html](http://www.tobunken.go.jp/index_j.html)
- ◎奈良文化財研究所 <http://www.nabunken.go.jp/>

② 近年の美術史研究や美術界の動向を知るためのツール紹介(1-②に関連して)

- 『日本美術年鑑』東京文化財研究所 最新刊は『日本美術年鑑2009』  
内容は、大別して、一年間の美術界年史、展覧会、美術文献、物故者の4点
- ◎東京文化財研究所 HP [http://www.tobunken.go.jp/index\\_j.html](http://www.tobunken.go.jp/index_j.html)  
既刊の年鑑掲載情報を順次追加公開  
美術界年史 <http://www.tobunken.go.jp/japanese/nenshi/menu.html>  
(現在、1935~1969年の記事を公開)  
展覧会カタログ <http://archives.tobunken.go.jp/internet/cbkensaku.aspx>  
美術文献 <http://archives.tobunken.go.jp/internet/oakensaku.aspx>  
物故者 <http://www.tobunken.go.jp/japanese/bukko/index.html>

■展覧会の開催情報を知るには

- 各美術館・博物館のHPへ直接アクセスするほか
- ◎日本の美術展覧会記録1945-2005(国立新美術館)  
<http://db.nact.jp/exhibitions1945-2005/>
- ◎ART ACCESS(芸術新聞社) <http://www.gei-shin.co.jp/art-access/>  
全国の美術館・博物館やギャラリーの一覧とリンク、近現代の美術家、展覧会情報等
- ◎Museum-net(個人) <http://www.museum-net.com/>  
地方の小さな博物館・資料館・美術館の情報
- ◎artscape(大日本印刷) <http://artscape.jp/exhibition/index.html>
- ◎ミュージアムカフェ(株式会社廣濟堂) <http://www.museum-cafe.com/>

③ 美術情報探索目的別ツールの紹介 参考書籍については別紙参照

- 本を探す サイトによっては本文も見ることが可能
- ◎CiNii Books(国立情報学研究所) ← Webcat <http://ci.nii.ac.jp/books/>  
日本国内の大学、公共図書館などの所蔵資料を検索

◎美術図書館横断検索 <http://alc.opac.jp/>

東京国立近代美術館、国立新美術館、東京都現代美術館、横浜美術館、国立西洋美術館、東京都写真美術館、東京国立博物館、江戸東京博物館、神奈川県立近代美術館の美術図書館所蔵資料を検索

■古文書、漢籍、公文書等の所在(全文公開を含む)をさがす

○国書総目録 補訂版 岩波書店, 1989-91年 9冊

◎東京大学史料編纂所 <http://www.hi.u-tokyo.ac.jp/index-j.html>

◎日本古典籍総合目録(国文学研究資料館) <http://base1.nijl.ac.jp/~tkoten/about.html>

◎全国漢籍データベース <http://kanji.zinbun.kyoto-u.ac.jp/kanseki>

◎国文学研究資料館 <http://www.nijl.ac.jp/>

◎国立公文書館(内閣文庫) <http://www.archives.go.jp/index.html>

◎花園大学国際禅学研究所 [http://iriz.hanazono.ac.jp/frame/data\\_f00.html](http://iriz.hanazono.ac.jp/frame/data_f00.html)

禅籍名の検索＋一部本文テキスト公開

◎黒豆データベース(禅文化研究所内)

<http://www.zenbunka.or.jp/data/text/entry/post.html>

臨済禅関係禅籍の全文テキスト公開(順次アップ中)今後、臨済宗寺院所蔵の文化財DBも作成予定とのこと

◎観仏三昧 <http://www.d3.dion.ne.jp/~kairyu/>

有名な個人サイトですが2003年以降の仏像公開情報が充実

◎金沢美術工芸大学 絵手本DB

<http://www.kanazawa-bidai.ac.jp/tosyokan/edehon/main1.htm>

■文献を探す

◎国立国会図書館サーチ <http://iss.ndl.go.jp/>

◎CiNii Articles <http://ci.nii.ac.jp/>

◎雑誌記事索引集成データベース(皓星社) <http://zassaku-plus.com/authorize.php>

◎Web OYA-bunko <http://www.oya-bunko.or.jp/>

大宅壮一文庫雑誌記事索引

■ネット上で本や論文を読む

問題点>国会図書館のデジタル化を除き、資(史)料のテキスト化やPDF化、ネットでの全文公開は遅れている。

◎CiNii Articles <http://ci.nii.ac.jp/>

◎国立国会図書館サーチ <http://iss.ndl.go.jp/>

■作品画像を探す・見る

問題点>様々な権利関係の制約から、ネット上で公開されている作品の画像が少ない。

◎e 国宝 <http://www.emuseum.jp/>

国立博物館所蔵の国宝・重要文化財

◎文化遺産オンライン(文化庁) <http://bunka.nii.ac.jp/>

全国の博物館・美術館等から提供された作品や国宝・重要文化財などを紹介

◎絵巻物・奈良絵本コレクション <http://edb.kulib.kyoto-u.ac.jp/exhibit/>

京都大学所蔵の貴重書・古典籍の画像

◎日本伝統工芸会 <http://www.nihon-kogeikai.com/>

日本伝統工芸展の出品一覧等

ルーパート・フォークナー (Rupert Farlker) (Victoria and Albert Museum 学芸員)  
による英語訳がついている

- ◎工芸技術「動画で見る無形の文化財」  
<http://bunka.nii.ac.jp/jp/nation/movie/index.html>  
文化遺産オンラインで文化庁作成の工芸技術記録映画が少し紹介されています。
- ◎ポーラ伝統文化振興財団 <http://www.polaculture.or.jp/>  
伝統工芸、伝統芸能関係の情報と一部画像
- ◎実業史錦絵絵引 (渋沢栄一記念財団) <http://ebiki.jp/>  
明治期に出版された錦絵から、ものづくり、産物、職業などを紹介
- ◎黒沢デジタルアーカイブ <http://www.afc.ryukoku.ac.jp/Komon/kurosawa/>  
映画監督黒沢明

#### ■その他

- ◎美術人名検索 (思文閣) <http://www.shibunkaku.co.jp/biography/>
- ◎日本美術シソーラス・データベース 絵画編 (筑波大学編)  
<http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/jart/mokuji/index.html>◇仏像関係
- ◎春秋堂文庫 <http://homepage3.nifty.com/shunju-bunko/index.htm>  
日本彫刻史研究のための文献検索サイト(個人)
- ◎観仏三昧 <http://www.d3.dion.ne.jp/~kairyu/>  
仏像と文化財の情報
- ◎世界帝王事典 <http://reichsarchiv.jp/>  
公家(堂上家)家格リスト 不正確な情報もあるが、参考にはなる

#### ④ 古典芸能関係

##### ■情報(モノ)のある場所

- ◎早稲田大学演劇博物館 <http://www.waseda.jp/enpaku/>
- ◎国立劇場 日本語/English <http://www.ntj.jac.go.jp/kokuritsu.html>  
文化デジタルライブラリー <http://www2.ntj.jac.go.jp/dglib/>  
文楽 <http://www2.ntj.jac.go.jp/unesco/bunraku/jp/>  
能楽 <http://www2.ntj.jac.go.jp/unesco/noh/jp/>  
歌舞伎 <http://www2.ntj.jac.go.jp/unesco/kabuki/jp/>
- ◎法政大学能楽研究所 <http://www9.i.hosei.ac.jp/~nohken/>
- ◎武蔵野大学能楽資料センター  
[http://www.musashino-u.ac.jp/facilities/noh\\_research\\_archives.html](http://www.musashino-u.ac.jp/facilities/noh_research_archives.html)
- ◎神戸女子大学伝統芸能研究センター <http://www.yg.kobe-wu.ac.jp/geinou/>
- ◎立命館大学アトリサーチセンター  
[http://www.arc.ritsumei.ac.jp/archives\\_project.html](http://www.arc.ritsumei.ac.jp/archives_project.html)
- ◎歌舞伎公演データベース 戦後から現代まで1945~2011年10月(日本俳優協会)  
<http://www.kabuki.ne.jp/kouendb/>  
国立劇場のデジタルライブラリーの歌舞伎公演のデータは、国立劇場主催の歌舞伎公演のみだが、このサイトは戦後の歌舞伎上演記録として利便性が高い。

国立能楽堂、国立文楽劇場には図書室を併設。Opacは無し  
能楽情報については、文学や、彫刻(面)、漆工(笛・鼓)、染織(能衣装)からアプローチする方法もある  
歌舞伎情報については、浮世絵からアプローチする方法もある

##### ■モノ(作品)のある場所

- ◎徳川美術館 <http://www.tokugawa-art-museum.jp/artifact/>

- ◎江戸東京博物館 <http://www.edo-tokyo-museum.or.jp/> (現在改修中)
- ◎東京国立博物館 <http://www.tnm.jp/>

#### ⑤ 東京文化財研究所の紹介(実践候補)

- ◎研究資料検索システム  
<http://archives.tobunken.go.jp/internet/index.html>
- ◎白馬会関係新聞記事 [http://www.tobunken.go.jp/kuroda/archive/at\\_newsp/index.html](http://www.tobunken.go.jp/kuroda/archive/at_newsp/index.html)
- ◎日本美術年表(十五世紀前半)  
<http://www.tobunken.go.jp/~bijutsu/database/nenpyo/ctbl15a.html>
- ◎彩色関係資料データベース (語彙・史料篇)  
[http://www.tobunken.go.jp/~bijutsu/database/saishiki/saisiki\\_index.html](http://www.tobunken.go.jp/~bijutsu/database/saishiki/saisiki_index.html)
- ◎国宝彦根屏風  
[http://www.tobunken.go.jp/japanese/image-gallery/hikone/index\\_w.html](http://www.tobunken.go.jp/japanese/image-gallery/hikone/index_w.html)  
彦根城博物館との共同研究調査の成果
- ◎名古屋城古写真  
<http://www.tobunken.go.jp/japanese/image-gallery/nagoya/index.html>  
戦災で焼失した名古屋城の障壁画の古写真
  
- そのほか旧職員の自筆研究資料(メモ、写真)などが別途所蔵されている  
たとえば  
絵巻物 梅津次郎資料  
彫刻 久野健資料  
絵画全般 田中一松資料  
これらは、より専門的な考察を必要とする際に必要な資料となる

#### ⑥ 情報探索と、作品研究の例をあわせて紹介

最後に

美術に限ってみても、日本国内で、情報のデジタル化だけでなく共有化についても進んでいるとは言いがたい。アナログ・デジタルにかかわらず情報は蓄積され続けるなかで、必要な情報にたどりつくために、探索者は知恵と、技術、人とのコミュニケーションを駆使することが欠かせない。

### 3 ディスカッション

- 講義に関する質疑応答
  
- 東京文化財研究所のHPについてご意見を
  
- 今後の美術関係デジタルアーカイブ構築に向けて、海外からアクセスする際に、どのような情報があるとよいか、その他問題点など意見交換